

お 礼

校長 山 田 裕

「運動会から子どもたちが学んだものは」

先日の運動会には、多くの皆様にご来校ご声援をいただき、ありがとうございます。演技後の皆様の拍手やご声援に子供たちは満足感と充実感を得ることができたと思います。PTA・保護者の皆様には、準備、受付や片付け等でお世話になりました。また、保護者席が限られたスペースでしたが、お互い譲り合ってご協力いただきました。心より感謝申し上げます。アンケートでのご意見ご要望を真摯に受け止め、今後のよりよい実施に向けていく所存でございます。

さて、豊玉南小のよい伝統は、見本となる6年生がいることです。日ごろから感じていたことですが、この運動会の練習の様子をよくみていくと、いくつもそういった場面がありました。

たとえば、最初に応援団の3年生から6年生までの子供たちが顔合わせをした日、積極的に立候補した6年生、最後まで全力を尽くしました。それを見ていた3、4年生は、5、6年生の騎馬戦の時、自発的にアドリブで応援を盛り上げました。また、5年生のソーラン節の練習の時、次の練習を待つ6年生の多くから拍手がわき起こりました。運動会の会場準備、片付けを5、6年生が一緒にできたことも大きな意義があります。6年生の組体操では、思いやる気持ちやお互いを支え合う気持ちをもつことを学びました。試行錯誤を繰り返した練習の過程から本番まで、教育的な成果が多くありました。しかし、組体操は安全確保の点が大変重要であります。今後とも、練習段階から補助教員を配置して万全を期してまいります。

下級生には、いつか自分も6年生になったら、あなりたいという目標があります。今年も6年生がその姿をみせてくれたことに大変うれしく思いました。